
お給料の使い道

市丸乱菊

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

お給料の使い道

【Nコード】

N8028H

【作者名】

市丸乱菊

【あらすじ】

檜佐木修兵の給料の使い道を書きました。

俺の名は、 檜佐木修兵。

尸魂界の瀟霊艇通信の編集の仕事もこなす、九番隊副隊長だ。

今は原稿の回収に回っている。

六番隊隊舎前で、声をかけてきたのは、後輩の阿散井恋次だ。

「檜佐木さん。

仕事中ですか？

昼飯一緒にどうっすかぁ？」

「昼飯・・・・・・・・」

「うわっ！！

檜佐木さん。なんかやつれてないっすか？（アセアセ」

「え？」

そう。ここ最近1日1食でおにぎり1個の生活をしていた。

「また金欠なんスかぁ？」

毎月給料が出てからこのくらいの時期はいつもこうだ・・・。

でも別に自分の物を買って無駄使いしてるわけじゃなく・・・。

「そうなんだよ・・・。

やばくなったら大前田の家に行くさ・・・。」

「檜佐木さん・・・。

乱菊さんに誘われても断ったらいいんじゃない？」

「うつ・・・。。。。。

わかってるんだけど・・・。」

正直そうなんだ。

彼女と飲みに行くと1回30000環は軽く飛ぶのだ。

「東仙隊長たちがいなくなっただけからさ、

時折、すごい寂しそうな表情してるんだ・・・。

今まで見た事ないくらいさ・・・。

いつも元気といえば元気なんだけど、何かが違うんだ。」

だからって給料使い果たすほど・・・。

とは、思っのだが・・・w

恋は盲目とはこのことなんだろうなと、俺は思う。

「好きになる人、間違ったんじゃないっすかね・・・？」

呆れた阿散井に言われ慌てた。

「うつうつるさいっ！！」

そっそうかもしれないけどっ！！

でも俺は乱菊さんが好きだっ！！！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8028h/>

お給料の使い道

2010年10月10日08時02分発行